

核データ専門部会ワーキンググループリーダー会合議事録

日 時： 平成2年4月25日（水）13:30～17:00
場 所： 原研本部第5会議室
出席者： 松延（住友）、大沢（近畿大）、岸田（CRC）、川合（東芝）、
中島、中川、柴田、水本（原研）

配布資料

1. 理論計算コードSWGの活動報告および今後の計画（大沢）
2. 放射化断面積WGの活動報告と1990年度活動計画（中島）
3. 光核反応データWG1989年度活動報告及び1990年度活動計画（岸田）
4. 評価用データベースSWG平成元年度作業報告（柴田）
5. 荷電粒子核データ平成元年度活動報告・平成2年度活動計画（松延）
6. PKA/KermaデータSWGの活動状況（運営委員会資料：飯島）
7. 平成2年度核データ専門部会員名簿

8. 追加資料 核融合核データWG（神田）

議事

1. ワーキンググループ活動報告と予定

資料にしたがって各WGまたSWGの活動報告が行われた。主な議論は以下の通り。

- （理論） ・ 4つ課題に付き研究を進める。①光学ポテンシャル（北沢）②核反応論（五十嵐）③準位密度（播磨）④核分裂（大沢）
- （放射化） ・ ランク1（37元素）とランク2（22元素）核種の評価を行った、今後ランク3（24元素）の評価を行う。
・ JENDL-放射化断面積ファイルはJENDL-3の内容と必ずしも一致しない。
・ 今後ベンチマークテストの結果をフィードバックする。
- （荷電粒子） ・ 需要の動向を知る。
・ 理論計算コード（ALICE、GNASH、HETC、NMTC）による解析とコードの比較を行う。
- （光核反応） ・ 140MeVまで実験データ収集、理論計算コード（PICA、MCPNC）作成を実施している。
- （評価用DB） ・ AIによる支援システムの構築
・ 評価用パラメータのデータベース化

- ・誤差ファイルの作成
- (FP) ・File-1作成中、8月までにはファイル作成完了予定
- ・評価のレポート、積分テストも含め1990年度中に終了
- (PKAスペクトル) ・研究状況、データニーズ、計算手法、基礎データの調査検討
- ・Feで50MeV以下について計算

2. グループリーダーの変更

評価DBSWG 柴田氏 → 中川氏

PKAスペクトル 飯島氏 → 川合氏

3. SWGからWGへの変更

- ・放射化断面積およびPKAスペクトルをSWGからWGに変更する
- ・核データ評価WG内の評価用DB、理論コード、FP核データSWGも同様にWGに昇格させる案を運営委員会に提案する。

4. その他の意見

- ・加速器遮蔽用の核データ（高エネルギー断面積や荷電粒子反応）の評価に関しては、原子力学会の遮蔽の委員会（放射線挙動工学専門委員会）との連絡を密にすべきである。（WGへの参加を呼びかける、情報を交換する）。
- ・荷電粒子反応核データ評価では評価のスコープが広いため、分野ごとにグループ分けを実施した方がよい。将来、SWGへと移行することも検討する。
- ・評価のリクエストリストの作成を検討してはどうか。